

第8次中期経営計画

2023－2025

令和7年度の取り組み状況について



みやぎ仙南農業協同組合

第8次中期経営計画の位置づけ

—基本理念を踏まえたビジョン 2025—

【ビジョン 2025】

J Aみやぎ仙南は、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を通じて基本理念の実現に向け挑戦し続けます。

ビジョン 2025 について

J Aみやぎ仙南には、【「食」と「農」を未来につなぎ、豊かな暮らしと心を育み、夢と笑顔の溢れる地域づくりに貢献します。】という基本理念があり、この理念を実現していくために組織の運営を行っています。この基本理念を達成するための展望として、【ビジョン 2025】を掲げ、組合員・地域に必要とされる組織となるべく、事業に取り組んでまいります。

—計画策定趣旨—

第8次中期経営計画の方向性

J Aみやぎ仙南としての基本理念を果たすため、3年後の目指すべき姿をビジョン 2025 として設定しています。第8次中期経営計画はビジョン 2025 を達成するための経営戦略として位置付けており、社会経済、農業・農政、J A経営をめぐる情勢等を踏まえ策定しています。

—計画策定にあたり—

当組合の従来の中期経営計画では、基本方針、基本目標、重点実施項目、具体的な実施項目という構成で計画を策定していました。第8次中期経営計画では、**4つのプランと実践項目**という構成で計画の策定を行っています。また、各支店によるくらしの活動を行うことで、より地域に根差したJ Aとしての役割を発揮していきます。

計画の策定にあたっては第七次中期経営計画と同様、「J Aグループ宮城SDGs取組宣言」に基づき、J Aの事業や活動をSDGs（持続可能な開発目標）の17の目標に結び付けて整理し、持続可能な社会の実現に向け積極的に貢献していきます。

—4つのプランと実践項目—

当J Aの経営計画を農業振興プラン・地域活性化プラン・経営強化プラン・組織強化プランの4つに分類し、より実践的な内容として取り組んでまいります。



SDGsとは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称であり、2015年の国連サミットで採択されたものであり、「誰一人取り残さない」という基本理念のもと2030年までに持続可能な社会の達成に向けて取り組むものです。

令和7年度の取り組み状況について

I. 農業振興プラン

「農業者の所得増大」と「農業生産の拡大」に向け、農業と食の大切さを追求し、農業者と共に地域の農業振興に貢献するためのプラン。



取り組み結果

① 地区営農ビジョンの策定と実践による地域農業の振興

地区営農ビジョンは、管内の市・町の農業振興ビジョンを考察し実効性のある「地域営農ビジョン」として7地区毎に作成しました。一例として、柴田地区では、町で推奨している高収益作物「キャベツ」を推進し、新たに地域の担い手生産者によって試験的に作付けを開始した結果、作付面積は3.5aとなりました。今後は、みやぎ生協など販路を拡大していく予定です。



② 地域農業の多様な担い手の確保・育成・支援

農業経営管理支援事業における年間記帳代行では、担い手農家を中心に62経営体の経営管理サポートを行い、所得向上の支援に努めました。担い手経営体への個別訪問では、複数年買取米契約（営農継続可能な契約栽培）や水稻湛水直播種の作付に関するご提案、JA事業のご案内など合計2,132件訪問させていただきました。

このほか、6月・7月に「担い手農家農業資材講習会」、11月に「JA みやぎ仙南農業法人研修会」を開催し、スマート農業に関する情報提供など、参加者の理解促進を図りました。

農業融資専任担当を中心に、支店担当と連携しながら法人先を含めた継続的な訪問活動を行い、個別ニーズに応じた資金の情報提供並びに相談機能の強化に努めました。



▲担い手農家農業資材講習会の様子



▲JAみやぎ仙南農業法人研修会の様子

③ マーケットインに基づく農畜産物の生産振興

実需と結びついた買取米について、戦略的買取販売として米の集荷対策に取り組みました。

令和7年度より新たな米の集荷対策として全農みやぎと連携した複数年買取米契約（営農継続可能な契約栽培）について、取り組みの結果、契約数量42,198袋となりました。

このほか、水田を主食用米の生産以外に活用する目的で戦略作物に位置づけられている飼料用米にも積極的に作付誘導を行い、作付面積は284haとなりました。



令和7年度の取り組み状況について

取り組み結果

③マーケットインに基づく農畜産物の生産振興 つづき

園芸作物の販売面では、市場価格が安定したものの、全農みやぎとの生産販売マッチング事業の要件が見直され、作付面積の確保には課題が残る結果となりました。こうした中、当JAではパイプハウスリース事業を通じてトマト栽培の新規導入に努めたほか、ブロッコリーやイチゴなどの主要11品目について積極的な作付推進を行いました。

JA管内の仙台牛ブランド確立では、枝肉相場が安定してきたこと、共進会や買参交流への参加により生産者の上物率向上へと繋がり、仙台牛格付率は75%となりました。

また、優良繁殖雌牛導入や保留対策事業をご提案し、年間合計61頭保留となりました。

今後も組合員の皆さまの営農継続と、産地の活力維持に全力で取り組んでまいります。



▲出荷目揃い会(角田地区)

④トータルコスト低減による農業所得の確保

大型規格農薬を掲載した春資材予約注文書の取りまとめにあたり、メーカー直送による超大型規格品目の拡充や戸別配布を実施し、迅速な資材準備のサポートをさせていただきました。

さらに、E-SHOP(Web)にておいても注文書と同一の品目を掲載の上、予約注文キャンペーンをご案内し、除草剤の供給換算面積は2,837haとなりました。

各種農機具の故障リスク低減に向け、整備士が不足する中ではありましたが、利用者へ積極的にお声がけさせていただき、田植機72台、コンバイン118台の点検整備を実施しました。

稲作の受委託増加に伴い、生産経営体の大規模化が進展する中、米の出荷形態は紙袋からフレコンへの移行が進み、令和7年産主食用米は需給の引き締まりによる取引価格の高騰を受け、フレコン出荷数量は6,369tとなりました。

⑤めぐみ野の取り組み拡充による産消提携活動の推進

みやぎ生協とのめぐみ野事業では、夏場の高温対策や冬場の安定供給とした、生産者向けの栽培学習会・研修会を開催し、管理力向上や暑熱対策の強化が図られました。

また、「令和の米騒動」による米の品薄や価格高騰の中でも、産消提携の強みを活かし産地・流通関係者との協力により安定供給を維持することができました。さらに、店舗にておすすめ活動や組合員向け学習会などの交流を通じて、「めぐみ野」の価値を広く伝えることができました。めぐみ野商品取扱総額は2,013百万円(米・野菜・果物・鶏卵・養豚・梅干)となりました。



Check!



▲「たまご」学習会の様子

令和7年度の取り組み状況について

Ⅱ. 地域活性化プラン

「地域の活性化」に向け組合員と地域の皆様の多様なニーズに応え、当JAらしいサービスを展開していくためのプラン。

地域の課題解決や持続可能な社会の実現に貢献します。



取り組み結果

①組合員と地域のニーズに応える総合事業の展開

信用事業では、お客様の満足度につながる活動と次世代層へのアプローチに向け、ニーズに合わせた金融商品のご提案や対面によるアフターフォローの強化に努め、さらに、資産形成セミナーやイベントなど積極的に取り組みました。

共済事業では、組合員・利用者に寄り添った「安心」と「満足」の提供に向け、3Q活動に取り組みました。また、はじまる活動（各イベント）や自動車共済お見積りキャンペーンを通じて、次世代層との接点づくりとアプローチの強化に努めました。営農部門と連携し、法人研修会や個別訪問を通じて、「農業リスク」に関する商品説明やフォロー活動に取り組みました。



▲プログラミング教室の様子



▲自動車共済お見積りキャンペーンの様子

介護事業では、体験型健康イベントや体験型福祉用具展示会を開催し、延べ100名の方にご参加いただきました。在宅生活が継続できる福祉用具をご提案させていただき、新しく49名の方にご利用いただいたほか、福祉用具展示会を通じて、地域のケアマネジャーや包括支援センターと更なる連携を図ることができました。

葬祭事業では、家族葬や小規模葬プランに対するオプションをご提案させていただき、多くの方に充実した葬儀を執り行うことができました。法要や相続に関する事後相談対応に向け、6名が専門研修を受講し、各ホールにて月2回事前相談会を開催したほか、イベント開催時に新サービス（遺品整理等）をご案内し、3件ご利用いただきました。

自動車事業では、車両販売時に自動車メンテナンスパックのお声がけをさせていただき、車両購入者の約3割の方にご契約いただきました。このほか、お客様のニーズに合わせたサービスのご提供や、車検の早期予約、季節商品を含めたプラスワンのご提案を広くお伝えさせていただきました。



▲体験型介護教室の様子

令和7年度の取り組み状況について

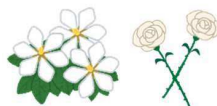
取り組み結果

②地域の特性を活かした地域活性化活動の展開

体験・学習イベント(女性大学・農業体験・防災・SDGs)などの各種イベントは、地域貢献や次世代育成などを目的に、参加者が楽しみながら学べる機会として多くの方にご参加いただき、JAの取り組みや事業などを紹介する機会ともなりました。また、地区事業本部による支店協同活動についても、地域貢献活動、農業体験、お祭りなどを企画し、地域の活性化に努めました。



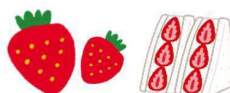
▲女性大学OG会



▼農業体験の様子



▲柴田地域活性化委員会主催のいちご狩り



▼夏野菜まつりin川崎



Ⅲ. 経営強化プラン

当JAらしいサービスを提供するために、総合事業体として経営を維持するためのプラン。収支改善やコンプライアンス経営の実践等により経営の強化と安定化を図ります。



取り組み結果

①将来見通しを踏まえた経営計画の策定・見直し

組合員など23名による計画内容の審議・検討をいただき「第9次中期経営計画」を策定しました。実践は令和8年～令和10年の3か年となります。また、精度向上に向け、令和8年度版経営シミュレーションの作成に取り組みました。

自己資本比率をはじめとする指定基準(JAバンク基本方針等)についても、安全な水準となっており、当JAらしいサービスを継続するための経営基盤確保に取り組みました。



②不祥事未然防止対策、内部統制の強化による経営の健全性の確保

内部監査や不祥事ゼロ運動の取り組みを実施していましたが、残念ながら令和7年度10月に不祥事件が発生してしまいました。不祥事件発生以降、「二度と不祥事件を起こさない」ということを役職員一丸となって考え、再発防止策及び役職員のコンプライアンス意識向上に向け取り組みを進めました。

令和7年度の取り組み状況について

取り組み結果

③激しい環境変化へ適応できる経営体制整備

当JAのファン拡大や農業への理解促進に向け、SNSによる広報ではInstagramを開設以降、440回を超える情報発信を行い、フォロワー数は1,318人となりました。また、地域への情報発信・交流促進・地域活性化に向け、管内の農業者を紹介するなど、地域コミュニティ誌（春号・秋号）の発刊を行いました。更に、非対面サービスによるアプリ等の提案に努めました。

経営体制整備の一つとして、地震災害情報及び安否確認が行える緊急時補助ツールを導入しました。また、インターネットに接続されたデバイスを多様なサイバー攻撃から守るため、多層防御及びソフトウェアのバージョンアップを行い、最新の脅威に対応できるよう努めました。

不稼働資産の活用については、計画に基づき、土地建物の売買や賃貸借契約などの整理を合計5件進め、管理費用の削減のほか、新たな賃貸料により経営基盤強化を図ることができました。



IV. 組織強化プラン

組合員の加入促進や意識醸成、関係性の強化に取り組むとともに、組合員の声を運営に反映させていくためのプラン。また、地域や当JAの魅力を発信することや業務改善を行うことで当JAの価値を高め、組織力を向上させていきます。



取り組み結果

①JAへの理解促進とメンバーシップの強化

准組合員にご加入いただく際、アンケートにご協力をいただき、当JAの基本理念や事業活動などのご理解と、地域農業と地域活性化について応援いただく思いを頂戴いたしました。

また、組合員との積極的な関係構築を目指し、11,841件の個別訪問を実施しました。

令和7年度も事業評価調査（アセスメント）を実施し、課題認識を深めました。同内容については、広報誌れいんぼー2月号やJAみやぎ仙南ホームページに掲載しております。

②協同組合活動・事業活動を担う人材育成と確保

専門的な知識・技術を備えた人材確保に向け、「人材育成ひとづくり基本方針」に基づいた体制を開始し、各部門に必要な資格や研修等について取りまとめ、受講取得計画を全部門において共有、実践しました。今後も、必要な資格、研修の受講など専門人材の育成に向けた取り組みを向上させてまいります。

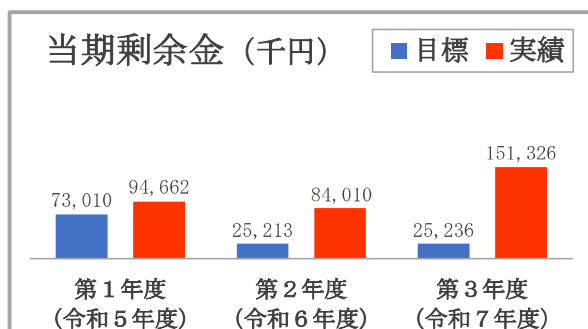
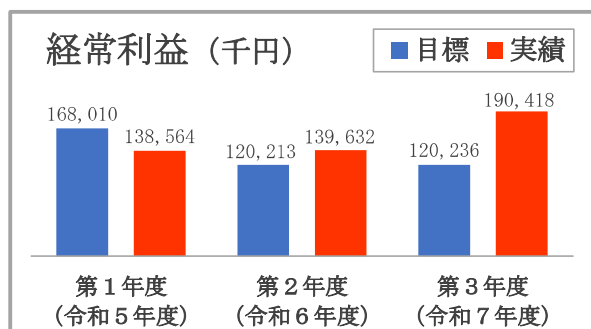
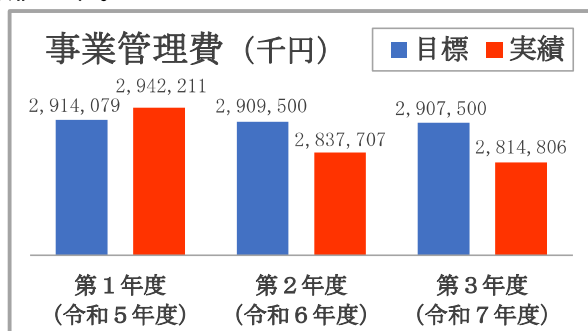
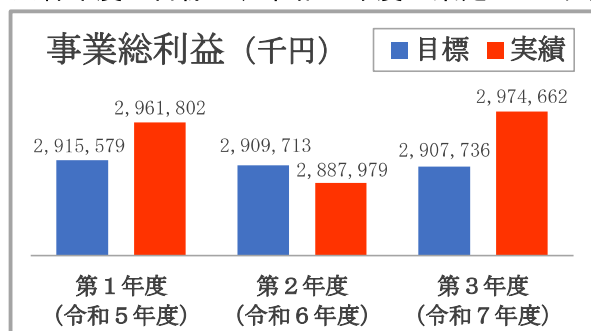


第8次中期経営計画 実績推移 <表・グラフ>

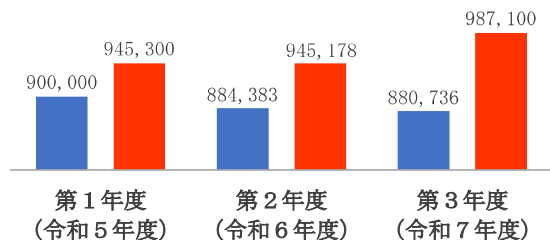
【単位：千円】

	第1年度（令和5年度）		第2年度（令和6年度）		第3年度（令和7年度）	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績
信用事業総利益	900,000	945,300	884,383	945,178	880,736	987,100
共済事業総利益	880,000	836,909	874,000	824,997	871,000	821,971
購買事業総利益	588,079	606,121	589,000	630,531	589,000	673,512
販売事業総利益	325,441	307,664	312,210	292,432	311,560	326,198
保管事業総利益	33,113	71,888	43,000	51,866	42,750	41,517
加工事業総利益	100,000	125,843	110,000	73,649	110,000	101,212
利用事業総利益	87,539	63,286	100,000	67,167	105,000	29,486
介護事業総利益	70,049	68,872	73,950	67,976	74,950	57,453
その他事業総利益	—	34	—	6	—	2
指導事業収支差額	△68,642	△64,118	△76,830	△65,828	△77,260	△63,792
事業総利益	2,915,579	2,961,802	2,909,713	2,887,979	2,907,736	2,974,662
事業管理費	2,914,079	2,942,211	2,909,500	2,837,707	2,907,500	2,814,806
事業利益	1,500	19,590	213	50,271	236	159,855
経常利益	168,010	138,564	120,213	139,632	120,236	190,418
特別損益	△50,000	△57,953	△50,000	△23,045	△50,000	△19,765
税引前当期利益	118,010	80,612	70,213	116,588	70,236	170,654
当期剰余金	73,010	94,662	25,213	84,010	25,236	151,326

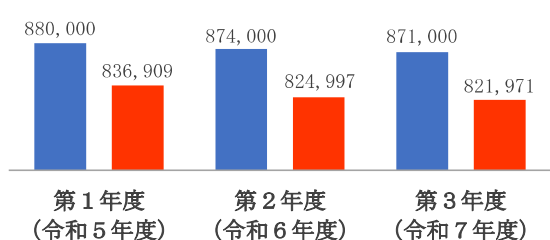
※各年度の目標は、令和4年度に策定した当時の数値です。



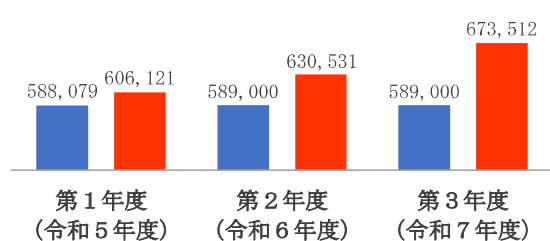
信用事業総利益（千円） ■目標 ■実績



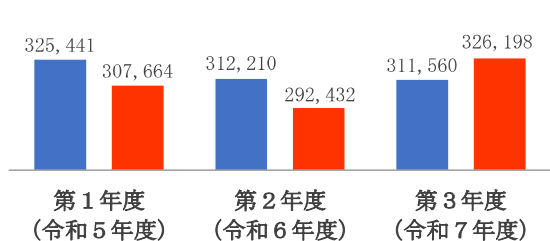
共済事業総利益（千円） ■目標 ■実績



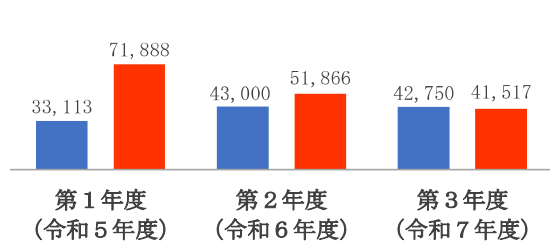
購買事業総利益（千円） ■目標 ■実績



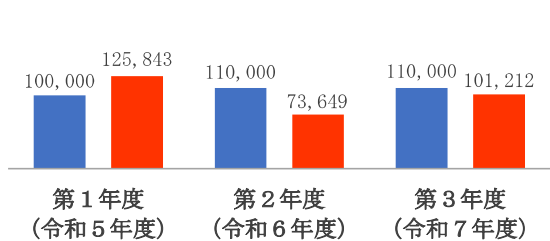
販売事業総利益（千円） ■目標 ■実績



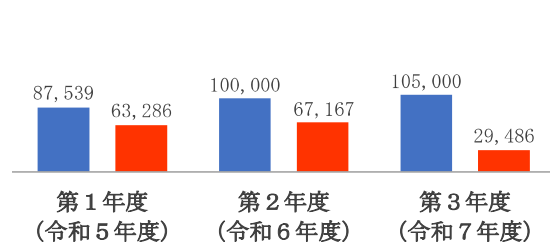
保管事業総利益（千円） ■目標 ■実績



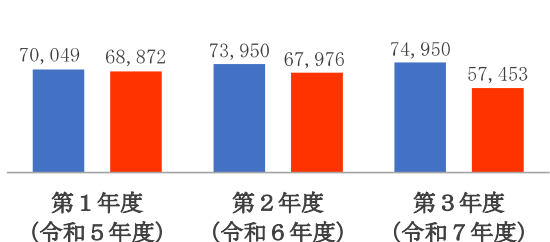
加工事業総利益（千円） ■目標 ■実績



利用事業総利益（千円） ■目標 ■実績



介護事業総利益（千円） ■目標 ■実績



令和5年度～令和7年度の3年間、想定を超える外部環境の変化がございました。このような状況の中、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を通じ基本理念の実現に向け、果敢に挑み続けてまいりました。この経験を糧に、第9次中期経営計画でも組合員・地域社会の期待に応え、今後も皆さまの暮らしと営農に寄り添い、地域になくてはならないJAみやぎ仙南であり続けるよう、新たな歩みを進めてまいります。